

日語使役表現「(s)ase-ru」：基於語料庫的實態調查

劉怡伶

東吳大學日本語文學系教授

摘要

本研究著眼於書面語及口語中所使用的使役表現，特別關注前接動詞特徵。調查結果可彙整如下：1) 使役表現的使用率整體偏低，尤其口語中比書面語中使用更少、2) 書面語中多為「他動詞的用法」，而在日常會話及具口語性質的書面語中，「有情物使役」的使用較多、3) 根據使役表現類型，上位前接動詞各有不同，但整體上上位前接動詞集中於極少數的動詞、4) 「裸使役」的前接動詞中，「有對他動詞」與「無對他動詞」出現較多，而「他動詞的用法」的前接動詞則多為「有對自動詞」與「無對自動詞」。

此外從日語教育的角度思考，本研究提出以下 3 點：1) 使用「有情物使役」時需考慮人際關係，因此於會話練習時必須讓學習者意識到此特點、2) 導入使役表現時，無需使用大量動詞說明，僅須利用部分常用動詞來練習變化形及常用句型即可、3) 教授「他動詞的用法」時，需特別說明「無對自動詞」的使役形與他動詞的不同，但在會話練習時並非必須。上述分析結果可望對日語使役表現教學有所助益。

關鍵詞：使役、語料庫、他動詞、有情物、日語教育

受理日期：2024 年 08 月 27 日

通過日期：2024 年 10 月 25 日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202412_(43).0007

Japanese Causative Expression "(s)ase-ru": A Corpus-Based Investigation

Liu, Yi-Ling

Professor, Department of Japanese Language and Culture,
Soochow University

Abstract

The purpose of this paper is to analyze the characteristics of Japanese causative expressions, particularly the features of the preceding verbs. Key findings are: a) Causative expressions are used infrequently, especially in spoken language. b) Written language favors "transitive usage," while spoken language show more animate causatives. c) The type of causative affects the top preceding verbs, which are concentrated in a few verbs. d) "Bare causatives" use paired and unpaired transitive verbs, while "transitive usage" involves paired and unpaired intransitive verbs.

For Japanese language education: a) Emphasize interpersonal relationships in animate causatives during conversation practice. b) Use a limited number of verbs to practice causative forms and patterns. c) Explain distinctions between causative forms of unpaired intransitive verbs and transitive verbs, though this is not essential for conversation practice.

These findings aim to improve teaching methods for Japanese causative expressions.

Keywords: Causative, Corpus, Transitive Verb, Animate, Japanese Language Education

日本語の使役表現「(s)ase-ru」 —コーパスに基づく実態調査—

劉怡伶

東呉大学日本語文学系教授

要旨

本研究では、書き言葉と話し言葉における使役表現の使用実態を考察した。その結果、次のことが明らかになった。1) 使役表現の使用率は全体的に低く、特に話し言葉では書き言葉よりも少ない。2) 書き言葉では「他動詞的な用法」が多く、日常会話や話し言葉的な書き言葉では有情物使役が多い。3) 使役表現のタイプによって上位前接動詞や使用パターンは異なるが、上位前接動詞はごく一部の動詞に集中している。4) 「裸の使役」では有対他動詞と無対他動詞、「他動詞的な用法」では有対自動詞と無対自動詞の前接動詞が多い。

前述の結果に基づき、日本語教育に関して次のことを指摘した。1) 有情物使役の練習では、学習者に人間関係を意識させることが重要である。2) 使役表現の導入では、多くの動詞を使う必要はなく、特に共起しやすい動詞を利用して活用形や常用パターンを練習させれば十分である。3) 「他動詞的な用法」の指導では無対自動詞の使役形と他動詞の使い分けを説明する必要があるが、会話練習では必ずしも必要ではない。以上の結果は、学習者の負担や指導の効率を考慮したもので、使役表現の指導の改善に有益であると考えられる。

キーワード：使役、コーパス、他動詞、有情物、日本語教育

日本語の使役表現「(s)ase-ru」 —コーパスに基づく実態調査—

劉怡伶

東呉大学日本語文学系教授

1. はじめに

日本語の使役表現「(s)ase-ru」は、学習者にとって習得が困難な項目の一つである（望月 2009、庵 2010、胡 2016 など）。習得が難しい理由の一つとして、その意味機能が多岐にわたることが挙げられる。例えば、(1)では「強制」、(2)では「許容・放任」の意味を表している（庵ほか 2001：126-141）。

(1) 人にお酒を無理に飲ませてはいけない。（庵ほか 2001：127）

(2) 子どもたちを遊ばせておいて、その間に買い物に行ってきた。

（庵ほか 2001：127）

また(3)のように、使役表現は、自他の対応を持たない自動詞を他動詞化する機能もある（寺村 1982：293、庵ほか 2000：103-104、中俣 2014：50-51）。

(3) 郊外にある料亭まで車を走らせた。（中俣 2014：51）

一方、自他の対応を持つ自動詞の場合は、対応する他動詞だけでなく、自動詞の使役形の使用も可能である（庵ほか 2001：138-140）。

(4) この凝固剤を使うと、プラスチックを早く {固める_他／固まらせる_{自使}} ことができる。（庵ほか 2001：139）

(3)(4)から使役表現の特徴を把握するために、前接動詞が自動詞か他動詞か、また対応する他動詞があるかを理解する必要があると言える。

先行研究では、使役表現の意味機能や、他動詞との相違、学習者の誤用を分析したものが多いが、前接動詞の特徴、特に対応する自他動詞の存在を分析した研究が少ない。しかし、前述のように、前接動詞の考察は、使役表現の特徴の理解に役立ち、学習者が抱える習得の困難さを解消するための手がかりになると考えられる。そこで、本研究では、コーパスを利用して使役表現の使用実態、特に前接動詞の特徴を解明することを目的とする。

本稿の以下の構成は次のようになる。まず、2 節では、本稿で用いる用語と考察対象を述べる。3 節では、関連する先行研究を概観する。4 節では、研究課題と調査方法を述べる。5 節では、結果と考察を述べる。6 節では、まとめと今後の課題を述べる。

2. 用語と考察対象

まず、本稿では寺村（1982：285-302）、岩田（2012）、庵（2013）を参考に、「使役表現」の定義と指し示す範囲を次のように定義する。

(5) 使役表現とは

使役接辞「(s)ase-ru」を含む形式で、ある事態を、第三者である何らかの存在（人、もの、こと）が引き起こす、あるいはそれを妨げ得るのに妨げない、あるいはその発生に主観的に責任があると感じていることを表す表現のことである。

1 節の(1)～(3)を例に説明すると、これらの例では、使役表現を用いて「人がお酒を飲む」「子どもたちが遊ぶ」「車が走る」という事態の発生と、事態の発生に何らかの責任のある第三者の存在を表していると言える。

次に、「使役表現」には下記の 3 つの形式がある。

(6) 使役表現の 3 つの形式

a. 裸の使役¹（授受表現や受身表現が接続していないもの）

例 人にはお酒を無理に飲ませてはいけない。（例 1 を再掲）

例 郊外にある料亭まで車を走らせた。（例 3 を再掲）

b. 使役授受

例 今度選挙に立候補させていただいた山口でございます。

（庵 2012 の例 35）

c. 使役受身

例 私はその件でいろいろなことを考えさせられた。

（庵 2013 の例 17b）

(6)のように、本稿でいう使役表現は、(a)の「裸の使役」、即ち、授受表現や受身表現が接続していない「(s)ase-ru」形式のほか、(b)の「使役授受」と(c)の「使役受身」のような複合形式も含む。

注意すべきは、「使役」の概念をより広い意味で捉えている論考もあることである。例えば、楊（1987）では、日本語の「てもらう」も使役表現の一つとして捉えられると説明している²。

(7)a. 子供が親に仕送りをさせる。

b. 子供が親に仕送りをしてもらう。（楊 1987 : 42）

¹ 「裸の使役」は庵（2012、2013）の用語である。庵（2012、2013）では、授受表現や受身表現が接続していない使役の形式を「裸の使役」と呼び、「使役授受」または「使役受身」を含む形式を「使役表現」と呼んで区別している。指導の際に「使役授受」や「使役受身」のような複合形式を一つの表現として導入すべきであるという庵（2012、2013）の主張に賛同するが、「使役表現」と呼ばれる概念の中に、「お酒を飲ませる」のような典型的な使役形式が含まれていないことに違和感がある。そこで本稿では庵（2012、2013）のいう「裸の使役」も「使役表現」の概念に含めることにする。

² 楊（1987）は、(7a)(7b)については、「子供」が「親」にある行為（「仕送り」）をするように働きかけ、その働きかけを受けた「親」が行為をするという点では同じであるが、「てもらう」は働きかけがより弱く、「させる」を幾分和らげる表現であると述べている。

一方、影山（1996：195-205）は、(8)のような他動詞化接辞「-e-」「-as-」「-os-」も「使役」の概念で捉えている。

(8)a. -e- : 建つ→立てる、進む→進める、並ぶ→並べる、整う→整える

b. -as-、-os- : 鳴る→鳴らす、飛ぶ→飛ばす、ずれる→ずらす、減る→減らす、乾く→乾かす、動く→動かす、枯れる→枯らす、蒸れる→蒸らす、起きる→起こす
(影山 1996：195)

前述のように、本稿では「(s)ase-ru」の特徴に着目しているため、ここでいう「使役表現」は特に「(s)ase-ru」を付けた形式のことをさす。

また、使役接辞「(s)as-u」も(5)で示した「ある事態を、第三者である何らかの存在（人やもの、こと）が引き起こす、あるいはそれを妨げ得るのに妨げない、あるいはその発生に主観的に責任があると感じていること」を表す表現のため、本稿でいう使役表現の一つと言える。王（2022）の指摘のように、「(s)ase-ru」と「(s)as-u」は使用実態が異なる³ので、本来ならば、日本語の使役表現の特徴を捉えるためにそれぞれ考察する必要がある。しかし、本稿では、紙幅の都合上、「(s)ase-ru」のみを考察対象とする。

なお、説明の便宜上、以下、前述した、使役表現の表す事態の発生に何らかの責任のある第三者のことを使役者、当該事態の発生に直接関わる主体のことを被使役者と呼ぶ。また、使役者と被使役者は有情物に限らず、無情物の場合もある。

3. 先行研究

本節では、本研究に関する先行研究を概観する。

³ 例えば、王(2022)では、使役授受と使役受身において「-(s)asu」が「(s)ase-ru」より出現しやすいことが判明している。

3.1 下位分類について

先行研究では、「(s)ase-ru」を特徴づけるために細かく分類を行っているが、一致した見解は得られていない。例えば、庵ほか（2001：126-141）と森（2012）は使役表現の意味をそれぞれ(9)(10)のように分類している。

(9) 庵（2001：126-141）の分類

a. 強制

例 母親は息子を一流大学に入れようと、一生懸命勉強させた。

（庵 2001：127）

b. 許容・放任

例 そんなに出張に行きたいのなら行かせてやるよ。

（庵 2001：127）

c. 原因（使役者が事態発生の原因）

例 びっくりさせてごめんなさい。（庵 2001：128）

d. 被使役者に着目した使役者の動作・変化

（被使役者が使役者の一部）

例 田原さん夫婦は子どもの進学問題で頭を悩ませている。

（庵 2001：130）

e. 操作（被使役者が機械・道具）

例 神戸まで車を走らせる。

f. 矯正（被使役者の動きが実現しにくい性質を持つ）

例 下り坂を滑り落ちていく車を懸命に抑えて止まらせた。

（庵 2001：132）

(10) 森（2012）の分類

a. 強制使役 人→人

例 部長はミラーさんをアメリカへ出張させました。

b. 許容使役 人→人

例 部長はすずきさんを3日間休ませました。

c. 謙譲使役 人→人

例 すみませんが、あした休ませていただけませんか。

d. その他 人 or 人以外→人以外

- i (使役形代用の他動詞) 合わせる、済ませる
- ii (他動詞からの派生) 聞かせる、知らせる
- iii (再帰的な和語) 晩秋の夕暮れは、僕の心をなごませる。
- iv (漢語サ変：スル置換可能) 米市場が景気を活性化させる。
- v (漢語サ変：スル置換不可能) 人々を熱狂させる。

(9)(10)からわかるように、庵ほか(2001: 126-141)と森(2012)は同様に「(s)ase-ru」の意味を下位分類しているが、明確な分類基準が存在しないため、検討する余地がある。例えば、庵(2001)の分類では「操作」と「矯正」の違いが必ずしもはっきりしない。「壊れた車を無理に走らせる」を例に考えると、(9e)の例と同様に「操作」、つまり機械を操作することを表していると言えるが、「壊れた車」が走行に問題があり、「走りにくい」性質を持っていると考えられるため、「矯正」を表しているとも言える。一方、森(2012)の指摘のように、「すみませんが、あした休ませていただけませんか」といった例からは謙譲の意味が読み取れるが、この例では「休む」ことを許可する使役者の存在を「(s)ase-ru」を用いて表しているため、「許容使役」に分類することも可能である。以上のことから、使役表現の分類を考える際により明確な基準が必要であると言える。

3.2 前接動詞について

先行研究では、「(s)ase-ru」の前接動詞については次のように説明されている。

まず、【I】前接動詞が自他の対応を持たない非意志的自動詞の場合、「(s)ase-ru」は、他動詞化接辞として使用されるが、自他の対応を持つ自動詞の場合は、使用されない(寺村 1982: 293、庵ほか 2000: 103-105、永澤 2007、中俣 2014: 50-51 など)。

- (11) (対応する他動詞を持たない自動詞)

暗闇で猫が目を光らせた。(庵ほか 2000 : 104)

(12) (自他の対応を持つ自動詞)

私は落として卵を {割った／*割れさせた}。

(庵ほか 2000 : 104)

例えば、日本語の「心理動詞」も、「体系的に「他動詞」が欠如している」ため、これらを他動詞的に用いる場合には、「(s)ase-ru」を使用する(三宅 2018)。

(13) 不合格の知らせが太郎を悲しませた。(三宅 2018 の例 29)

(14) 彼女からの手紙が太郎を喜ばせた。(三宅 2018 の例 30)

次に、【Ⅱ】前接動詞が自他の対応を持つ自動詞の場合、使役表現を使用するか、他動詞を使用するかは、被使役者が有情物かどうか、また当の動きが被使役者の意志によるものかどうかによる。例えば次のように、被使役者の意志によって行われない動作の場合は、基本的に使役表現の使用が不可能である(庵ほか 2001 : 138-141)⁴。

(15) 救急隊員は負傷者をベッドに {a.寝かせた_他／b.寝させた_{自使}}。(庵ほか 2001 : 138)

(16) 救急隊員は重傷で動けない負傷者をベッドに {○寝かせた_他／×寝させた_{自使}}。(庵ほか 2001 : 139)

また(17)のように、被使役者が無情物の場合、一般的には他動詞が用いられ、「(s)ase-ru」は用いられないが、(18)のように無情物の被使役者が「自然に V する」性質を持つ場合は、その自動詞の「(s)ase-ru」形の使用も可能である(庵ほか 2001 : 138-141)。

⁴ (15)(16)の表示は庵ほか(2001)による。(17)(18)も同様。

(17) 犯人はひげを {○溶かした_他／×溶けさせた_{自使}}。

(庵ほか 2001 : 139)

(18) この凝固剤を使うと、プラスチックを早く {固める_他／固まらせる_{自使}}。(庵ほか 2001 : 139)

以上の説明から、1) 他動詞化の機能、及び 2) 他動詞との使い分けを考える際には、「(s)ase-ru」の前接動詞の特徴、特に対応する自他動詞の存在に着目する必要があると言える。

3.3 使用実態

近年、コーパスを利用して「(s)ase-ru」の使用実態を調査した研究が多く、貴重な知見を提供している。例えば、森（2012）は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』を用いて使役表現の使用実態を調査し、次のことを明らかにしている。

(19)a. 現代の言語使用において使役の使用率は高くない。

b. 日本語教育における初級のような易しい文体で使役が使われにくい。

c. 強制や許容といった用法が使役の典型とは言えない。

中俣（2014 : 50-51）は、『BCCWJ』を利用して前接動詞の使用実態を考察した結果、次のことを指摘している。

(20)a. 上位の語は典型的な強制や許可の意味ではなく、対応する他動詞がない時に自動詞を他動詞化するのに使われることが多い。

b. 「知らせる」「聞かせる」は依頼表現のほか、「知らせてくれた」「聞かせてもらう」のように恩恵表現とセットで使われることが多い。

c. 「思わせる」は「中世を思わせる城壁」のように連体修飾節で使われることが多い。「思われるような～」の形も多

い。

- d. 「持たせる」の対象物は「意味」「余裕」「機能」など抽象物が多い。
- e. 「走らせる」の対象物は22%が「車」で圧倒的に多い。人に走ることを強制する例は少ない。
- f. 10位の「食べる」、12位の「飲む」は強制や許可を表す典型的な使役の意味で使われている。対象は小さな子どもか動物が多い。

一方、岩田（2012）では、話し言葉コーパス『女性のことば・職場編』『男性のことば・職場編』『名大会話コーパス』を利用して被使役者の格表示（「を」格使役・「に」格使役）を分析している。また、王（2021）では、『日本語日常会話コーパス』（CEJC モニター公開版）における前接動詞を抽出した上で、「(s)aseru」形態と「(s)asu」形態の使用傾向を比較している。

以上のように、先行研究ではコーパスを利用して使役表現の使用傾向を分析しているが、次の問題がある。まず、調査の際に書き言葉コーパスと話し言葉コーパスの両方を利用していないため、全体的な使用傾向を把握できたとは言い難い。また、3.1 節で見たように、使役表現はいくつかのタイプに分類可能であるが、各タイプの使用傾向についての記述がない。更に、前接動詞の特徴、例えば自他の対応を持つ動詞が出現しやすいかについての考察がない。しかし、上記の問題を解明することで、使役表現の理解を深めることができると思われる。

4. 研究課題と調査方法

4.1 研究課題

3 節では先行研究を概観し、問題点をまとめた。以下、これまでの検討を踏まえて2つの研究課題を提示したい。

- (21)a. 使役表現の全体的な使用傾向及び各タイプの使用傾向について、書き言葉と話し言葉の間に違いがあるのか。
- b. 上位前接動詞、及びそれに対応する自他動詞の有無について、書き言葉と話し言葉の間に、また各タイプの使役表現の間に違いがあるのか。

上記のように、本研究の分析焦点は、使役表現の全体的な使用傾向、各タイプの使用傾向、上位前接動詞、及びそれに対応する自他動詞の有無の4点にある。以下、コーパスを使用してこの4点について考察していく。

4.2 調査方法

4.2.1 使用コーパスと検索方法

前述のように、本稿ではコーパスを用いて使役表現の使用実態を考察する。使用コーパスは下記の通りである。

表 1 使用コーパス

	コーパス名
書き言葉	『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』のコアデータ ⁵
話し言葉	『日本語日常会話コーパス (CEJC)』
	『名大会話コーパス (NUCC)』
	『現日研・職場談話コーパス (CWPC)』

検索の際に、コーパス検索アプリケーション「中納言」の「短単位検索」を利用した。検索条件は下記の通りである。

⁵ 『BCCWJ』の形態論情報はほとんど自動で付与されているが、約 110 万語（全体の約 1%）は人手で解析精度を高めている。この部分は「コアデータ」と呼ばれ、解析精度は 99%以上となっている。詳しくは、山崎（2015：23）を参照のこと。

- (22)a. 後方共起: 語彙素="せる" ON 1 WORDS FROM キー
 b. 後方共起: 語彙素="させる" ON 1 WORDS FROM キー

以上のように、本稿では、書き言葉コーパスだけでなく、日常会話の特徴を反映する話し言葉コーパスも用いて分析する。

4.2.2 使役表現の分類

前述のように、本稿では、使役表現の各タイプの特徴を考察する。ここでは庵（2012、2013）、岩田（2012）、森（2012）を参考に使役表現を表2のように、【A】「裸の使役」、【B】「使役授受」、【C】「使役受身」、【D】「他動詞的な用法」の4タイプに分類できると考える。

表2の【I】「有情物使役」は使役者と被使役者はともに有情物の場合である。また、形態的に「有情物使役」は更に、【A】「裸の使役」、【B】「使役授受」、【C】「使役受身」の3つに分類できる。

表2 使役表現の下位分類

【I】 有情物使役	【A】 裸の使役
	【B】 使役授受
	【C】 使役受身
【II】 使役者は動作主に相当する場合、 または無情物使役の場合	【D】 他動詞的な用法

一方、【D】「他動詞的な用法」は「使役者は動作主に相当する場合、または無情物使役（使役者または被使役者は無情物）の場合」を指すが、基本的に(10)で示した、森（2012）の分類の中の「その他」に相当する（森田 2012 の「その他」を下記に再掲）。

(23) 森（2012）における「その他」類

- a. （使役形代用の他動詞）合わせる、済ませる

- b. (他動詞からの派生) 聞かせる、知らせる⁶
- c. (再帰的な和語) 晩秋の夕暮れは、僕の心をなごませる。
- d. (漢語サ変: スル置換可能) 米市場が景気を活性化させる。
- e. (漢語サ変: スル置換不可能) 人々を熱狂させる。

本稿で上記の「その他」に分類されているものを特に「他動詞的な用法」と呼称したのは、(23a)-(23e)の各タイプが「(s)ase-ru」形をとりながら、他動詞の性質を持っているためである。具体的には、(23a)の「使役形代用の他動詞」と(23c)の「再帰的な和語」は庵ほか(2000: 103-104)、中俣(2014: 50-51)、三宅(2018)の指摘のように、対応する他動詞がないため、「(s)ase-ru」形で代用するものである。

(24) 合う→合わせる、済む→済ませる (使役形代用の他動詞)

(25) 心が和む→心を和ませる (再帰的な和語)

また、(23b)の「他動詞からの派生」も早津(1998)、早津・高(2012)の説明のように、他動詞の性質が見られる。

(26) 子供たちに戦争の体験を 聞かせる／話す

(早津・高 2012: 2)

(26)では「聞かせる」の主体は「使役主」というより、「話す」動作の主体と同様に動作主と見なすことができる。

更に、(23d)(23e)のような「漢字+(s)ase-ru」については、庵・宮部(2013)の指摘のように、「主な用法は「使役」ではなく、「他動詞を作る」ということ」である。以上のように、(23)の「その他」に

⁶ 査読者のご指摘の通り、(23b)の「聞かせる」や「知らせる」は、使役者と被使役者の両者がともに有情物である場合があり、ほかの「他動詞的な用法」とは異質であるため、同じように扱うのは問題がある。この点については見直す余地があり、今後の課題としたい。

分類されている「(s)ase-ru」の用法は他動詞の性質を持っているため、本稿では「他動詞的な用法」と呼び、「有情物使役」の各用法と区別する。

留意すべきは次のことである。表 2 の「他動詞的な用法」も「有情物使役」と同様に、形態的に「裸の使」「使役授受」「使役受身」の 3 つに細分類できる。例えば、形態から見ると、(27)-(29)ではそれぞれ「裸の使役」「使役授受」「使役受身」が使用されているように見える。しかし、これらの例では、使役者または被使役者が無情物のため、表 2 に基づいて分類すると、「他動詞的な用法」になる。

- (27) この種のリストラは、従業員を疑心暗鬼に追い込むことによってその能動性を失わせる。(『BCCWJ』PN2d_00020)
- (28) こんな寂しげな冬を暖かく感じさせてくれるもの、それがエントツー。(『BCCWJ』PB39_00017)
- (29) あとに一人残された刑事は、このことばにはなはだ考えさせられたらしく（略）。(『BCCWJ』PB49_00007)

上記のように、「他動詞的な用法」にも、使役授受と使役受身の使用が見られるが、コーパスを調査したところ、用例が少なかった⁷。そこで本稿では細分類せず一括して「他動詞的な用法」として扱う。

以上、使役表現の 4 つのタイプについて述べた。先行研究とは異なり、「使役者と被使役者が有情物か」及び「使役者が動作主に相当するか」といった分類基準がより明確であるため、4 つのタイプの相違を比較的に理解しやすいと思われる。次節からは前述した分類に基づき、各タイプの使用実態を考察する。

⁷ 詳しくは 5 節で述べるが、「他動詞的な用法」は主に書き言葉コーパスで使用されているが、『BCCWJ』を調査した結果、658 件の「他動詞的な用法」のうち、使役授受と、使役受身の形式を含む用例は 29 件のみである。

5. 結果と考察

5.1 使用実態

まず、全体的な使用実態を見る。表 3 は書き言葉コーパスと話し言葉コーパスにおける使役表現の出現頻度を示している。各コーパスの語数が異なるため、調整頻度（ここでは「100 万語当たりの出現頻度（PMW）」を利用）を見る必要がある。

表 3 コーパスにおける使役表現の出現頻度

		「(s)ase-ru」の出現数	総語数	PMW
書き言葉コーパス 『BCCWJ』のコー アデータ	書籍	293	204050	1435.92
	雑誌	224	202268	1107.44
	新聞	339	308504	1098.85
	知恵袋	80	93932	851.68
	ブログ	70	92746	754.75
	白書	129	197011	654.79
話し言葉コーパス	『CWPC』	86	186906	460.12
	『CEJC』	933	2419171	385.67
	『NUCC』	431	1135329	379.63

表 3 の PMW から、話し言葉コーパスに比べて、書き言葉コーパスにおける使役表現の出現頻度が高いことがわかる。話し言葉では書き言葉に比べて使用制限が多いと考えられる。

次に、使役表現の 4 つのタイプの使用実態を見る。ここで各タイプの使用傾向とコーパスの各レジスターとの関連を検討するために、フィッシャーの正確確率検定を実施した。分析の結果を表 4 に示す。

表 4 コーパスにおける使役表現の各タイプの出現頻度⁸

			【A】 裸の使役	【B】 使役授受	【C】 使役受身	【D】 他動詞 的な用法	合計
書き言葉コーパス『BCCWJ』	書籍	出 現 数	130	15	0	148	293
		調 整 済 み 残 差	-0.62	-4.95***	-3.89***	6.01***	-
	新聞	出 現 数	101	8	2	228	339
		調 整 済 み 残 差	-6.45***	-6.91***	-3.65***	13.47***	-
	雑誌	出 現 数	55	20	1	148	224
		調 整 済 み 残 差	-6.76***	-2.58**	-3.01**	10.29***	-
	ブログ	出 現 数	19	23	2	26	70
		調 整 済 み 残 差	-3.22**	4.32***	-0.63	0.42	-
	白書	出 現 数	47	0	0	82	129
		調 整 済 み 残 差	-2.25*	-4.85***	-2.49**	7.04***	-
	知恵袋	出 現 数	26	26	2	26	80
		調 整 済 み 残 差	-2.47*	4.54***	-0.83	-0.43	-
話し言葉コーパス	CEJC	出 現 数	507	186	33	207	933
		調 整 済 み 残 差	6.34***	5.55***	-1.56	-10.10***	-
	C	出 現 数	49	24	2	11	86

⁸ 調整済み残差の絶対値が 1.96 より大きいものは 5%水準、2.58 より大きいものは 1%水準、3.29 より大きいものは 0.1%水準で有意差があることを意味する。本稿ではそれぞれ*、**、***で示す。

		調整済み残差	2.06*	3.49***	-0.94	-4.35***	-
	NUCC	出現数	257	80	71	23	431
		調整済み残差	6.18***	2.42*	13.46***	-14.06***	-
	合計	出現数	1191	382	113	899	2585

フィッシャーの正確確率検定を行った結果、有意差が認められた ($p = 0.0004$)。調整済み残差を確認したところ次の特徴が見られた。

【A】「裸の使役」の使用は3つの会話コーパスにおいていずれも有意に多い一方、書き言葉コーパスでは「書籍」を除いて有意に少ない。「裸の使役」は主に日常会話で使用されていると言える。

【B】「使役授受」は3つの話し言葉コーパス及び「ブログ」「知恵袋」では顕著に使用されている。日常会話はもちろん、「ブログ」「知恵袋」も人間関係を配慮する場面が多いと思われる。「使役授受」は人間関係を重視する場面で積極的に使用されていると考えられる。

【C】「使役受身」は話し言葉コーパス「NUCC」を除いて全体的に用例数が少なく、特に書き言葉コーパス（「ブログ」「知恵袋」以外）では顕著に少ない。各用例を確認すると、(30)のように、使役受身が使用されているのは使役者の立場から被害の事態を描写している場合である。こうした使用制限があるため、「使役受身」の使用が少ないと考えられる。

(30) パキスタン空軍の機体や関係者も、空港内から退去させられたという。(BCCWJのPN1a_00021)

【D】「他動詞的な用法」の使用は書き言葉コーパスでは、「ブログ」「知恵袋」を除いて有意に多いが、話し言葉コーパスでは有意に少ない。「ブログ」「知恵袋」は書き言葉であるが、話し言葉の性質も

持っている（丸山 2015、高野・上村 2017、中俣 2020）。ここから「他動詞的な用法」は主に典型的な書き言葉で使用されていると言える。

以上、書き言葉と話し言葉における使役表現の使用実態を考察した。先行研究では、『BCCWJ』を使用して調査した結果、現代の言語使用において使役の使用率は高いこと、書き言葉では他動詞的な用法が多く使用されていることが指摘されているが、本節の調査により新たに、1) 話し言葉では書き言葉よりも使役表現の使用がさらに少ないこと、2) 有情物使役（「裸の使役」「使役授受」「使役受身」）は書き言葉での使用が少ないが、日常会話や、話し言葉の性質を持つ書き言葉（ブログ、知恵袋）では比較的多く使用されることが判明した。

以上の事実を併せて考えると、使役表現の使用率が書き言葉でも話し言葉でも高いのは、他動詞的な用法を使用している時のみ、人間関係を意識する必要がないためであると考えられる。また、有情物使役の使用は人間関係の配慮に深く関わっているため、会話練習においては学習者に人間関係を意識させることが重要であると言える。

5.2 上位前接動詞

本節では各使役表現のタイプで出現しやすい前接動詞を考察する。

まず、表 5 は書き言葉コーパスと話し言葉コーパスにおける「裸の使役」の上位前接動詞を示している（但し出現率が 2% 以上の前接動詞のみ）。

表 5 「裸の使役」の上位前接動詞

書き言葉コーパス 『BCCWJ』のコアデータ				話し言葉コーパス 『CWPC』 『CEJC』 『NUCC』			
	動詞	出現数	出現率		動詞	出現数	出現率
1	為る	159	42.06%	1	為る	168	20.69%

2	食べる	12	3.17%	2	待つ	101	12.44%
3	言う	10	2.65%	3	遣る	69	8.50%
4	行う	9	2.38%	4	食べる	38	4.68%
	合計	190	50.26%	5	行く	37	4.56%
				6	言う	27	3.33%
				7	持つ	25	3.08%
				8	聞く	23	2.83%
				9	使う	20	2.46%
				10	書く	19	2.34%
					合計	527	64.90%

表 5 からわかるように、書き言葉コーパスと話し言葉コーパスでは、「裸の使役」の上位前接動詞（出現率が 2% 以上）はそれぞれ 4 語と 10 語しかない。しかし、各上位前接動詞の出現率を合わせると、前接動詞全体の半分以上を占めている（書き言葉コーパスでは約 50%、話し言葉コーパスでは約 65%）。ここから、「裸の使役」で出現しやすい前接動詞はごく一部の動詞に集中していることがわかる。

各用例を見ると、「待つ」は話し言葉コーパスでは、特に「お待たせ（いた）しました」といったパターン、「言う」は書き言葉コーパスでは、特に(31)(32)のように「～に言わせれば」「～に言わせると」といったパターンで多く使用されていることが確認できる。

(31) 母に言わせると昼間は明るいから大丈夫#全然関係がないと思う。(『BCCWJ』 OY14_03879)

(32) 本人にいわせれば、「自分の仕事ではない」という。
(『BCCWJ』 PM12_00011)

上の考察から、書き言葉と話し言葉において「裸の使役」がよく

使用されるパターンは前接動詞によって異なることがわかる。

次に、「使役授受」と「使役受身」の上位前接動詞を考察する。

表 6 「使役授受」「使役受身」の上位前接動詞（3%以上）

話し言葉コーパス『CWPC』『CEJC』『NUCC』							
使役授受				使役受身			
	動詞	出現数	出現率		動詞	出現数	出現率
1	為る	96	33.10%	1	為る	32	56.14%
2	遣る	30	10.34%	2	食べる	7	12.28%
3	食べる	17	5.86%	3	食う	3	5.26%
4	使う	10	3.45%	4	止める	2	3.51%
5	行く	10	3.45%	5	見る	2	3.51%
	合計	163	56.20%		合計	46	80.70%

前述のように、「使役授受」及び「使役受身」は主に話し言葉で使われている。そこで、話し言葉コーパスにおけるこの2タイプの上位前接動詞を抽出して表6にまとめた（但し出現率が3%以上のみ）。

表6からわかるように、話し言葉コーパスにおける「使役授受」と「使役受身」の上位前接動詞（出現率が3%以上）はどちらも5語のみであるが、各上位前接動詞の出現率を合わせると、前者では前接動詞全体の約55%、後者では前接動詞全体の約80%を占めている。ここから動詞全体の中のごく一部の動詞は「使役授受」と「使役受身」の上位前接動詞として使用されていることがわかる。

面白いことに、話し言葉コーパスにおいて、「遣る」は「使役授受」の上位前接動詞に入っているが、「使役受身」では上位に入っておらず1例のみである。ここから、使役表現のタイプによって出現しやすい前接動詞が異なることが示唆されていると言える。

最後に、「他動詞的な用法」の上位前接動詞を考察する。

表 7 「他動詞的な用法」の上位前接動詞

書き言葉コーパス『BCCWJ』のコアデータにおける 他動詞的な用法			
	動詞	出現数	出現率
1	為る	379	57.25%
2	感ずる	20	3.02%
3	済む	16	2.42%
4	知る	15	2.27%
5	思う	13	1.96%
6	走る	9	1.36%
7	膨らむ	7	1.06%
	合計	459	69.34%

前節で述べたように、「他動詞的な用法」は主に書き言葉で使用されている。そこで、書き言葉コーパスにおける上位前接動詞を抽出して表 7 にまとめた（但し出現率が 1% 以上のみ）。

表 7 のように、書き言葉コーパスにおける「他動詞的な用法」の上位前接動詞（出現率が 1% 以上のみ）は 7 語あるが、各語の出現率を合わせると、前接動詞全体の約 7 割を占めている。ここから、「他動詞的な用法」において上位前接動詞としてよく使用されているのは動詞全体のごく一部の動詞に過ぎないことがわかる。

また各用例を見ると、前接動詞によってよく使用されるパターンが異なることが確認できる。例えば、(33)(34)のように名詞修飾節でよく使用されるパターン（「思わせる／感じさせる＋名詞」）もあれば、(35)(36)のように述部によく使用されるパターン（「車／視線を走らせる」）もある。

(33) 相手に“ヤルな”って思わせる本気バッグです」

(『BCCWJ』 PM51_00077)

(34) 温かみや気品を感じさせる高級レンガタイル。

(『BCCWJ』 PM11_00031)

(35) 同署では、男性が首と車外の本にロープをかけて車を走らせ、自殺した可能性が高いとみて調べている。

(『BCCWJ』 PN3d_00023)

(36) 久仁子はこっそり今夜のスペシャルメニューに視線を走らせる。(『BCCWJ』 PM12_00029)

以上、使役表現の4つのタイプの上位前接動詞について考察した。使役表現のタイプによって出現しやすい前接動詞が異なること、及びよく使用されるパターンが前接動詞によって異なることが明らかになった。また、どのタイプも上位前接動詞がごく一部の動詞に集中していることも判明した。これは、使役表現の指導の際に、できるだけ多く動詞を使って練習させる必要がなく、ごく一部の動詞を利用して、活用形及び常用パターンを練習させれば十分であることを意味する。これにより学習者の負担を軽減できるだけでなく、より高い学習効果が期待できると考えられる。

5.3 前接動詞に対応する自他動詞の有無

本節では、自・他動詞対応の観点から使役表現の前接動詞の特徴について考察する。下記のように、日本語の動詞は自他対応の有無の観点から5種類に分類できる（早津 1987、1989 など）。

- (37)a. 無対他動詞（対応する自動詞を持たない他動詞）
- b. 有対他動詞（対応する自動詞を持つ他動詞）
- c. 無対自動詞（対応する他動詞を持たない自動詞）
- d. 有対自動詞（対応する他動詞を持つ自動詞）
- e. 両用（自動詞としても他動詞として使用可能）

ここでは、使役表現の直前に上記のどの種類の動詞が出現しやす

いかを見るために、前接動詞をパルデシほか（編）（2015）の『現代語自他対一覧表 Excel 版』に基づいて分類した上、分類ごとの異なり語数（type）を集計した⁹。当初は「裸の使役」「他動詞的な用法」「使役授受」「使役受身」の4タイプの前接動詞の種類を比較する予定であったが、『BCCWJ』のコアデータにおける「使役授受」と「使役受身」の出現数が少なく（異なり語数はそれぞれ27語と1語のみ）、その前接動詞をさらに上記の5種類に分類すると、統計処理できなくなるので、以下、「裸の使役」と「他動詞的な用法」の前接動詞のみ考察する。

まず、前接動詞の分類ごとの異なり語数と使役表現のタイプとの関連を分析するために、書き言葉コーパスと話し言葉コーパスからそれぞれ集計したデータを対象にカイ二乗検定を行った。その結果、有意差が見られた（書き言葉コーパスの場合は $\chi^2(4) = 25.355$ 、 $p < 0.01$ 、話し言葉コーパスの場合は $\chi^2(4) = 18.422$ 、 $p < 0.01$ ）。どの項目間で有意な差があるかを確認するために残差分析を行った。表8と表9はカイ二乗検定と残差分析の結果をまとめたものである。

表8 書き言葉コーパスにおける使役表現の前接動詞の特徴

前接動詞	書き言葉コーパス『BCCWJ』のコアデータ				合計
	裸の使役		他動詞的な用法		
	語数	調整済み残差	語数	調整済み残差	
無対他動詞	43	3.30***	26	-3.30***	69
有対他動詞	19	2.70**	8	-2.70**	27
無対自動詞	16	-2.40*	35	2.40*	51
有対自動詞	17	-2.20*	35	2.20*	52
両用	3	-1.90	11	1.90	14
合計	98	-	115	-	213

⁹ この一覧表は国立国語研究所共同研究プロジェクトの成果の一つである。詳しくはハイコ・ナロックほか（2015）『現代語自他対一覧表 Excel 版』（<https://watp.ninjal.ac.jp/resources/>）を参照のこと。

表 9 話し言葉コーパスにおける使役表現の前接動詞の特徴

前接動詞	話し言葉コーパス『CWPC』『CEJC』 『NUCC』				合計
	裸の使役		他動詞的な用法		
	語数	調整済み残差	語数	調整済み残差	
無対他動詞	39	2.90**	9	-2.90**	48
有対他動詞	26	2.00*	7	-2.00*	33
無対自動詞	15	-2.70**	19	2.70**	34
有対自動詞	26	-2.10*	24	2.10*	50
両用	4	-0.4	3	0.4	7
合計	110	-	62	-	172

表 8 と表 9 から、書き言葉コーパスと話し言葉コーパスのいずれにおいても、「裸の使役」では「無対他動詞」「有対他動詞」の前接動詞の異なり語数が顕著に多い一方、「他動詞的な用法」では「無対自動詞」「有対自動詞」の前接動詞の異なり語数が顕著に多いことが確認できる。

ここで注目すべきは、「他動詞的な用法」において、「無対自動詞」だけでなく「有対自動詞」も異なり語数が多く、つまりバリエーションが豊富である点である。前述のように使役表現が他動詞化の機能があるために、「無対自動詞」の場合、その使役形を使用する必要があることが予想できるが、「有対自動詞」の場合は、対応する他動詞が存在するため、「有対自動詞」の使役形を使用することが少ないと考える学習者が多い（小川 2001 など）。しかし、本稿の調査で明らかになったように、「他動詞的な用法」では「無対自動詞」と同様に、「有対自動詞」の前接動詞もバリエーションが多い。そのため、他動詞との使い分け、つまりどのような時に対応する他動詞を使用すべきか、どのような時に「有対自動詞」の使役形を使用すべきか

を指導する必要があると考えられる¹⁰。但し、前述のように、「他動詞的な用法」は話し言葉での使用が少なく、主に書き言葉で使用されているため、会話練習の授業では時間をかけて説明する必要がないと思われる。

6. まとめと今後の課題

以上、書き言葉と話し言葉における使役表現の使用実態、特に前接動詞の特徴を考察した。考察の結果、次のことが明らかになった。

- 1) 使役表現は全体的に使用率が高くなく、特に話し言葉では書き言葉よりさらに少ない。
- 2) 書き言葉では「他動詞的な用法」の使用が多いが、日常会話や話し言葉の性質を持つ書き言葉（ブログ、知恵袋）では有情物使役（「裸の使役」「使役授受」「使役受身」）の使用が多い。
- 3) 使役表現のタイプによって上位前接動詞やよく使用されるパターンが異なるが、全体的に上位前接動詞はごく一部の動詞に集中している。
- 4) 「裸の使役」では有対他動詞と無対他動詞の前接動詞の異なり語数が多いが、「他動詞的な用法」では有対自動詞と無対自動詞の前接動詞の異なり語数が多い。

上記の記述に基づき日本語教育の観点から次の3点が示唆される。

- 1) 有情物使役を使用する際には人間関係を配慮する必要があるため、会話練習時に特に学習者に意識させることが重要である。
- 2) 使役表現を導入する際には、多くの動詞を使って練習させる必

¹⁰ 例えば、例 i 「夫のカーディガンを洗濯機で洗い縮ませてしまいました。（『BCCWJ』OC08_01640）」では「有対自動詞」の使役形が、例 ii 「ゴジラはぐんぐん距離を縮めた。（『BCCWJ』LBm9_00109）」では「他動詞」が使用されている。例 i で「有対自動詞」が使用可能なのは、「カーディガンは洗濯で縮む」という性質を持っているためである。詳しくは庵（2001：139）を参照のこと。

要はなく、特に共起しやすい動詞を利用して、活用形及び常用パターンを練習させれば十分である。

- 3)「他動詞的な用法」を指導する際には、無対自動詞の使役形と他動詞の使い分けを説明する必要がある。しかし、会話練習においては、その説明や練習に長時間を割く必要はない。

以上の結果は、学習者の負担や指導の効率を考慮したもので、使役表現の指導の改善に有益であると考えられる。ただ、前述の説明ですべての学習困難点や学習者の誤用を解決できるとは思われない。また使用数が最も多い前接動詞「為る」の使用実態を把握するために、直前の「NV(を)」をさらに検討する必要がある。今後の課題としたい。

〈付記〉

2名の査読者の方から貴重なコメントを頂いた。ここに記して感謝の意を表したい。

参考文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、東京、スリーエーネットワーク

庵功雄(2010)「中国語母語話者による漢語サ変動詞のボイス習得研究のための予備的考察」『日本語／日本語教育研究』1、東京、日本語／日本語教育研究会、pp.103-118

庵功雄(2012)「文法シラバス改訂のための一試案—ボイスの場合」『日本語／日本語教育研究』3、東京、日本語／日本語教育研究会、pp.39-55

庵功雄・宮部真由美(2013)「二字漢語動名詞の使用実態に関する報告—「中納言」を用いて—」『一橋大学国際教育センター紀要』

4、東京、一橋大学国際教育センター、pp.97-108

庵功雄（2013）「使役（態）」に言及せずに「使役表現」を教えるには—1つの「教授法」『日本語／日本語教育研究』4、東京、日本語／日本語教育研究会、pp.39-55

岩田一成（2012）「初級教材における使役の「偏り」と使用実態」『日本語／日本語教育研究』3、東京、日本語／日本語教育研究会、pp.21-37

上村圭介（2017）「レジスター別出現頻度に基づく順接接続詞の文体差の評価—現代日本語書き言葉均衡コーパス—」『語学教育研究論叢』34、東京、大東文化大学語学教育研究所、pp.274-293

王慧雋（2021）『日本語の会話における使役表現の使用原理と使用実態』一橋大学審査博士学位論文

王慧雋（2022）「使役表現における「-(s)asu」形態の使用実態」—「日本語日常会話コーパス」の調査—『日本語文法』22-2、つくば、日本語文法学会 pp.37-53

小川誉子美（2001）「自動詞使役文の諸相」『横浜国立大学留学生センター紀要』8、神奈川、横浜国立大学留学生センター、pp.11-18

影山太郎（1996）『動詞意味論』、東京、くろしお出版

胡君平（2016）「台湾人学習者による日本語使役文の用法別の使用実態—LARP at SCU の分析結果から」『日本語教育』163、東京、日本語教育学会、pp.96-103

高野愛子（2017）「レジスター別出現頻度に基づく順接接続詞の文体差の評価—現代日本語書き言葉均衡コーパス—」『語学教育研究論叢』34、東京、大東文化大学語学教育研究所、pp.274-293

寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味I』、東京、くろしお出版

中俣尚己（2014）『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』、東京、くろしお出版

中俣尚己（2020）「主成分分析を用いた副詞の文体分析」『計量国語

- 学』32-7、東京、計量国語学会、pp.419-435
- 早津恵美子（1998）「「知らせる」「きかせる」の他動詞性・使役動詞性」『語学研究所論集』3、東京、東京外国語大学語学研究所、pp.45-65
- 早津恵美子・高京美（2012）『コーパスに基づく言語学教育研究資料 6 コーパスに基づく日本語使役文・他動詞文の実態』、東京、東京外国語大学大学院総合国際学研究院
- 丸山直子（2015）「コーパスにおける格助詞の使用実態—BCCWJ・CSJにみる分布」『計量国語学』30-3、東京、計量国語学会、pp.127-145
- 三宅知宏（2018）「日本語の「使役」をめぐってI：問題点の指摘と整理を中心に」『待兼山論叢』52、大阪、大阪大学大学院文学研究科、pp.19-3
- 森篤嗣（2012）「使役における体系と現実の言語使用—日本語教育文法の視点から」『日本語文法』12-1、つくば、日本語文法学会、pp.3-19
- 山崎誠（2015）「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の設計」『現代日本語書き言葉均衡コーパス』利用の手引第1.1版』東京、国立国語研究所コーパス開発センター、pp.20-27
- 楊凱榮(1987)『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』、東京、くろしお出版

使用データ

『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』のコアデータ、
『現日研・職場談話コーパス（CWPC）』、『名大会話コーパス（NUCC）』、
『日本語日常会話コーパス（CEJC）』、ハイコ・ナロック、プラシャント・パルデシ、影山太郎、赤瀬川史朗（2015）『現代語自他対一覧表 Excel 版』（<http://watp.ninjal.ac.jp/resources/>）